

第5回自動物流道路検討会 議事要旨

日時：令和6年7月19日（金）10：30～12：00

出席委員：羽藤英二委員長、小幡純子委員、杉井淳一委員、兵藤哲朗委員、味水佑毅委員、若林陽介委員

【議事】

- (1) 効果等の試算について
- (2) 荷物の管理の現状について（JR貨物）
- (3) 中間とりまとめ案について
- (4) 今後の議論の方向性について

【委員等からの主な意見】

■コンセプト・中間とりまとめ案について

- 実験線の必要性などを共有できたのは大きな成果であるが、物流の危機的状況を重くみて、時間をかけず既存インフラを活用できるような箇所でスピード感をもって実施できるよう、絞り込みをすべき。
- 「バッファリング」はいわゆる流通型保管（一時保管）だと思うが、色々な捉え方ができるので、わかりやすい補足・例などがあった方がよい。
- 11型パレットの規格をベースにすることに対して様々な指摘もあると思うが、自動物流道路をきっかけとして、自動物流道路以外でも物流の標準化が進むように、不退転の決意で進めてもらえると良い。
- 自動物流道路の利便性が確保され、参加者を増やすように取り組むことにより、自動物流道路で使用される荷物の規格や荷役方法等が標準化し、ドライバーの働き方改革などこれまでの物流からの転換点となることが期待される。
- 鉄道と自動物流道路で相互に補完することで、次世代の物流システムが強靱化される、次世代の環境負荷の非常に低い物流システムに寄与し得るといような表現を入れて欲しい。

■効果等の試算について

- 試算によってマーケットのイメージが分かってきた。追加として、効果の試算については今後、金額換算も検討して欲しい。重さよりも金額換算による価値の方が事業の重要性を世の中に伝える手法としてインパクトがある。

■今後の議論の方向性について

- 今後の自動物流道路の具体化に向けて、民間企業の意見を聞いていくことが重要。また、リニアや新幹線などの過去の事例も含め、資金調達の方法について議論を深めていくべき。必要な技術の検証等について、道路局のETCでの経験もあるので、民間の組合なども組成しながら、民間企業の投資を促していくべき。

- 荷物の規格の統一は重要であり、多くの民間の賛同や参加を得ていくことが重要。また、荷物の品質の確保をカート側・インフラ側でどのように役割分担していくのか、バッファリング機能という新しい価値のためにも、今後検討が必要。
- 自動物流道路からの積替えについて、貨物鉄道等の物流事業者と協業しながら、具体的な課題の洗い出しをすべき。民間企業が生産性の高い事業を行えるよう、官民の協調領域について議論していくべき。
- インフラ整備、オペレーションの在り方について、具体的なビジネスモデル、ユースケースを示しながら議論していくべき。
- 自動物流道路については海外、トラック事業者含め各方面から注目を集めており、スピーディに最終とりまとめに向かえるとよい。

■その他

- JR貨物の荷物管理について、フォークリフトをマテハン機器に置き換えてイメージしてみれば自動物流道路の荷物の流れ、情報の管理のイメージができるという意味で参考になると思う。
- ターミナルがポイント。現時点のマテハン機器の性能では、この大量の荷物を扱うことはできない。また、物流業界で速度が速い機器でも 500m/m であり、30 km/h には満たず、勾配にあまり強くないという特徴もあるため、技術的な検討が不可欠。